

# 2024 秋川流域ジオの会の geo ジオ講座 seminar



「秋川流域ジオの会」は、秋川流域のジオ資源(地質・地形)の豊かさと面白さを学び伝えるアマチュアジオ愛好家の集まりです。毎月の第4土曜日の午後2時から全体会を開催しています。全体会前半のジオ講座は一般参加可能です。なお、講師は全員がジオの会会員です。

- 参加費は1回につき300円です。(会員は無料)
- 事前申し込みは不要です。当日、会場にお越しください。
- 会場は五日市交流センター2階会議室ですが、事情により変更することがあります。  
ホームページ <https://www.akigawavalleygeo.com/> から事前に確認してください。

期日	講師	演題	こんな内容です
4月 27日 (土)	内山孝男氏	五日市町層群の各部層について	「五日市町層群」は、後の日本列島がアジア大陸から離れ、現在の位置に移動する過程で海底に堆積した地層です。全体で約2500mの厚さがあり、いくつかの部層に分けて研究されてきました。五日市町層群の部層をめぐる問題を整理して考察します。
5月 25日 (土)	鈴木肇氏	地質図の見かた	地質図は沢山の地質情報に溢れています。地質区分、走行傾斜は元より、大地のうねり・歪み・亀裂・火成岩の貫入など。これ等の情報をもっと利用しましょう。
6月 22日 (土)	小泉武栄氏	房総半島の地理と古代史	房総半島は狭い場所なのに、古代には3つないしは4つの国に分けられていた可能性がある。なぜそんなことが起こったのか、地理と歴史から考察してみる。
7月 27日 (土)	石井弘好氏	モンゴル大地の地質聞きかじり	大陸地殻におけるプレートテクトニクスは？エルドネットの地下資源は？フブルネス火山の噴火は？ブルナイ温泉キャンプ(モンゴル唯一の温泉保養地)になぜ温泉が？など。草原の旅を紹介します。

期日	講師	演題	こんな内容です
8月 24日 (土)	池田美智子氏	上総層群を探る	関東平野の基盤を作る上総層群という地層は、秋川流域では加住丘陵と草花丘陵で見ることができる。上総層群研究チームで行った巡検を元に、上総層群の実態を明らかにしたい。
9月 28日 (土)	桜澤祐樹氏	なぜ東京山側探究型自然学習が都市と地方の課題を解決し、四方、五方良しのサステナブルな地域が作れるのか	一般社団法人フォースウェルネスの活動が、4年目の夏を越えた現状について、常に現場で活動しているリアルな感覚と数字的な結果を示して、更なる地域資源『ジオ』の可能性と課題を明らかにする。
10月 26日 (土)	吉村成公氏	隕石と地球	太陽が形成されつつあるとき、原始太陽の周りに残ったチリなどが集まり おびたしい数の微惑星ができたといわれます。この微惑星が壊れ放出されたものが、現在の地球に落ちてきたと考えられている、そういう隕石があります。そのため、隕石を調べると太陽系や地球の始まりのことが分かると言われていています。そんな隕石についての紹介です。
11月 23日 (土祝)	御手洗望氏	多摩川の野鳥	多摩川全域で実施された多摩川鳥類カウント調査から、河口から上流までの鳥類相の違い、1970年代・1980年代・2020年代の鳥類相の比較を紹介します

## ジオ情報室の展示パネルが新しくなりました

秋川渓谷戸倉体験研修施設(戸倉しろやまテラス)3階にある「秋川流域ジオ情報室」は、秋川流域のジオ情報を知るための「玄関」のような施設です。秋川流域に分布する各地質帯の岩石や化石をたくさん展示しています。そして、昨2023年、展示パネル22枚を新しく作りなおしました。

ぜひ、ご家族連れやお友だちを誘って:見学に来てください。

四万十帯ジオサイト  
 レー2 北秋川・小岩の赤い渓谷



四万十帯小岩内層群水俣帯の赤色頁岩の河床




秋川の川で骨つかる赤い石ころ

陸奥からの火山灰を呑んだ硬い泥岩(頁岩)

秋川の川原には赤い石が度々見られます。これらの石を斜視したおおもとの岩体は小岩あたりの北秋川やその支流の溝久保沢に分布しており、沼床の赤い独特の深谷美をつくっています。こうした赤い石は、チャートよりもやや陸に若い半海洋の深海底に堆積した泥岩で、陸奥からの火山灰を多く含むため崩壊が激化して赤くなるともに、硬く締まった頁岩となっています。チャートや緑色凝灰岩と並んで分布し、それらの岩石とともに海洋プレート断層の一部を構成しています。

要チェック ♪ 赤色頁岩 小岩内層群水俣帯 海洋プレート断層 白磁紀 緑色凝灰岩

五日市町層群ジオサイト  
 いー4 地層が立ち上がる“サンドイッチ岩”



五日市橋の下流に貫入した地層




伊原石の採石場

県より大きなボットホール

大きな力を受けた五日市町層群

秋川の五日市橋下の河床には、新第三紀中新世の五日市町層群の地層が露出しています。この写真の場所は高尾凝灰岩帯部であり、緑がかった凝灰岩のシルト岩と泥岩の互層がほぼ垂直になっていて、下流側に均かた新しい地層が重なっています。どんな力が働いて地層が直立したのか、想像力がかきたてられる場所で、「日本の名石百選+プラス」に選ばれています。

近くには伊原石の採石場やボットホール、ソールマークなどが見られます。

要チェック ♪ 新第三紀中新世 高尾凝灰岩帯部 シルト岩 伊原石 ボットホール ソールマーク